

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名	東住吉区
学校名	今川小学校
学校長名	吉川 秀樹

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・今川小学校では、第6学年 87名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

大阪市の平均正答率との比較では、国語が4ポイント、算数が6ポイント、理科が4ポイント下回る結果であった。また、全国との平均正答率の比較では、国語が5.8ポイント、算数が6ポイント、理科が4.1ポイント下回る結果であった。無回答率では、国語・算数・理科ともに、大阪市・全国よりも上回る結果であった。

領域別の平均正答率にみると、国語では「(3). 我が国の言語文化に関する事項」で大阪市・全国を上回った。その他の領域では、大阪市・全国の平均を下回った。算数では、すべての領域で大阪市・全国の平均を下回る結果であり、特に「C、測定」で、大阪市、全国の平均を大きく下回った。理科も乖離度は少ないものの全領域で大阪市・全国の平均を下回る結果であった。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

[国語]

「(3)我が国の言語文化に関する事項」は全国の平均正答率を0.6ポイント上回る結果となった。一方で、「(1)言葉の特徴や使い方に関する事項」は全国の平均正答率を2.5ポイント下回る結果となった。また、「(2)情報の扱い方に関する事項」は全国の平均正答率を10ポイント以上下回る結果となった。

本校では、令和4年度から令和6年度まで、基礎学力、論理的思考の習得を目指して、計画的に学力向上支援チーム事業を行ってきた。授業研究に取り組んできた。その結果が、「読むこと」の結果の改善につながっている。また、言語力アップ週間という取り組みを続けていることにより、内容の「言葉の特徴」や問題形式の「短答式」が昨年度より改善した。しかし、問題形式の「記述式」に課題の残る結果となった。デジタル教材の効果的な活用方法や授業改善、個に応じた指導など学校全体での取り組みが必要である。

[算数]

全ての領域で全国の平均正答率を下回る結果となった。特に「測定」に関する領域の平均正答率は8.2ポイント下回った。今年度から基礎学力の定着を目指して、学力向上支援チーム事業を行っている。計算力アップ週間の取り組みを続けている効果として、「数と計算」領域の正答率及び「知識・技能」の正答率については、昨年度よりも改善されている。授業改善を行い、ノート指導の充実を目指し、筋道を立てて論理的に説明する力が少しずつ身についている。一方で、「変化と関係」領域や「思考・判断・表現」に課題が残った。基礎基本の定着を図るとともに、ノート指導の充実を目指し、筋道を立てて論理的に説明する力をさらにつけていく必要がある。

[理科]

全ての領域で全国の平均正答率を下回る結果となった。特に「生命」を柱とする領域で全国の平均正答率を4.3ポイント下回った。今年度より、大阪市総合教育センター研究校「研究III 理科教育の推進」に取り組んでいる。「学校での生きものさがし」や「自由研究のすすめ方」「理科特別授業」の実施など、外部講師の専門的な知識を子どもたちが触れることができる機会を作っている。提示された情報を複数の視点で分析し、解釈して自分の考えをもてるよう授業を進めるとともに、他者の気づきへも視点を当てることができるよう支援していく必要がある。

質問調査より

「学校に行くのは楽しいですか」に対する設問では肯定的な回答が全国平均より1.9ポイント上回る結果となった。「自己肯定感」「教師のサポート」に対する設問では、肯定的な回答が全国平均を上回る結果となっている。子どもたちのウェルビーイングを高めることができている。一方、「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができますか」に対する設問では平均より11.5ポイント低い結果となった。また、「土・日での家庭学習が1時間に満たない又はしていない」が69.7ポイントと高い結果となった。

以上のことから、「自己肯定感の高さ」や「教師のサポート」が心理的安全性を高めていることで、学校に楽しく登校することができている子どもたちが多いと言える。教科別のアンケートを見ると、国語科は好意的な回答が多いが、算数や理科では非好意的な回答が多い傾向がみられた。教職員のサポートを受け、学習に向かう気持ちが高まっているが、未来を切り拓く学力の向上までには至っていない。また、与えられた課題に対しては前向きに学習する姿勢は見られるが、自ら課題解決したり、自主的に学習に向かったりする態度はまだ育っていない児童が多い。今後も、子どもたちの頑張ろうという気持ちを高める土台を構築していくとともに、「個別最適な学習」と「協働的な学習」を意識した「わかる楽しい参加型」の授業の構築など改善が必要である。家庭との協力体制を整え、家庭学習の定着を図っていきたい。

今後の取組(アクションプラン)

本校では、令和4年度より、国語科に重点を置き、基礎学力、論理的思考の習得を目指して、計画的に学力向上支援チーム事業を行ってきたことで、ある一定の成果を得ることができている。話し合う活動を積極的に取り入れることで「話すこと・聞くこと」に関する力が少しずつ身につき、教材分析から授業研究をすすめることで「読むこと」に成果が見られた。「言語力アップ週間」などの活用によって基礎基本の定着を図っていきたい。今年度より算数科に重点を置き、「振り返りプリント」や「学習教材データーの配信」などの効果的な活用ていきたい。モジュールタイムにおいて「計算力アップ週間」などを設けているが、基礎基本の定着を図るためのさらなる工夫が必要である。I C T機器の活用により、一人ひとりの児童にあったよりきめ細やかな「個に応じた指導」をすすめていく必要がある。視覚的にわかりやすい授業を行い、子どもたちが教え合い学び合う主体的・対話的な学びができる授業構成の工夫、子どもたちをひきつけ学びたいという意欲喚起を起こす授業の構築や課題解決学習の見直しなど、教員の指導力の向上が必要である。また、家庭学習の充実に向けても「デジタルドリルの活用」「スマートフォンやゲームの時間の約束」について、「良い習慣」づくりを啓発していく必要がある。

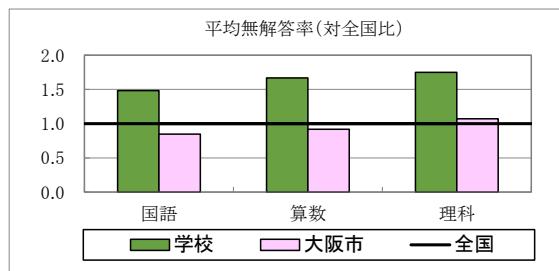
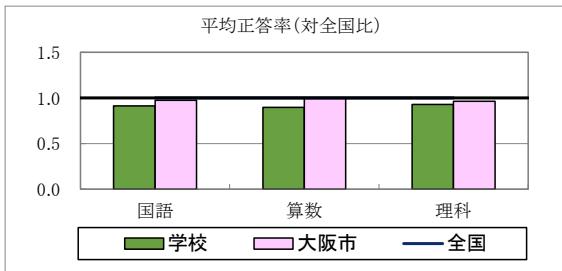
【 全体の概要 】

平均正答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	61	52	53
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1

平均無解答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	4.9	6.0	4.9
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8



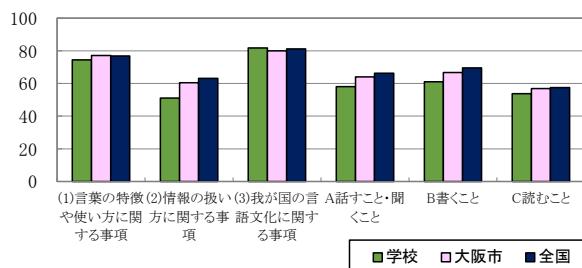
【 国 語 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方にに関する事項	2	74.4	77.1	76.9
(2)情報の扱い方にに関する事項	1	51.1	60.4	63.1
(3)我が国の言語文化に関する事項	1	81.8	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	58.0	64.0	66.3
B 書くこと	3	61.0	66.7	69.5
C 読むこと	4	53.7	56.9	57.5

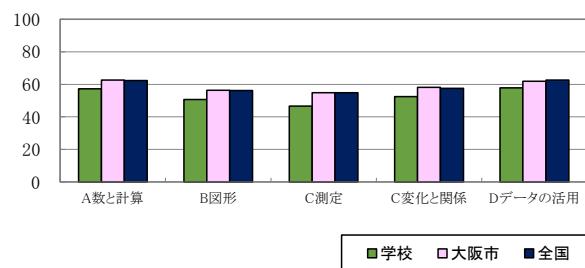
【 算 数 】

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	57.3	62.7	62.3
B 図形	4	50.6	56.4	56.2
C 測定	2	46.6	54.9	54.8
C 変化と関係	3	52.5	58.2	57.5
D データの活用	5	57.9	61.9	62.6

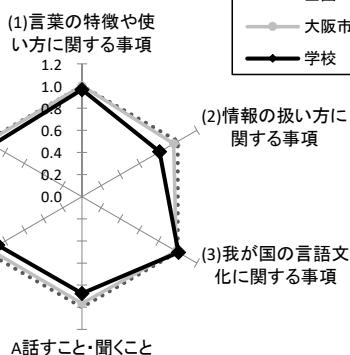
国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



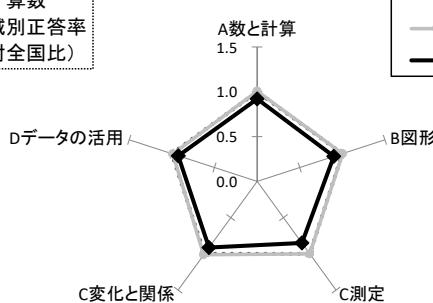
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語 内容別正答率(対全国比)

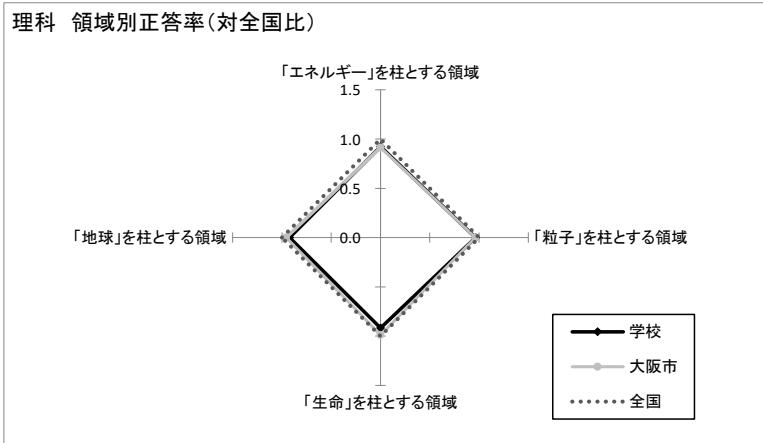
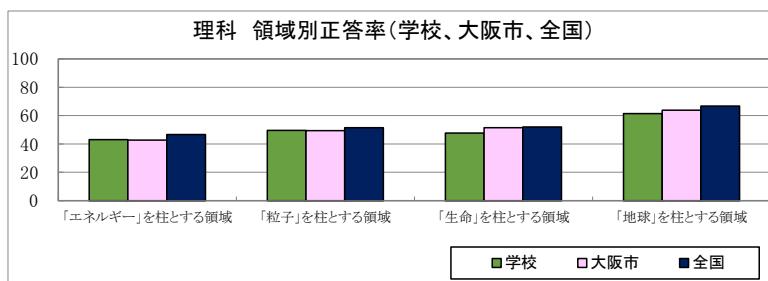


算数 領域別正答率(対全国比)



【 理科 】

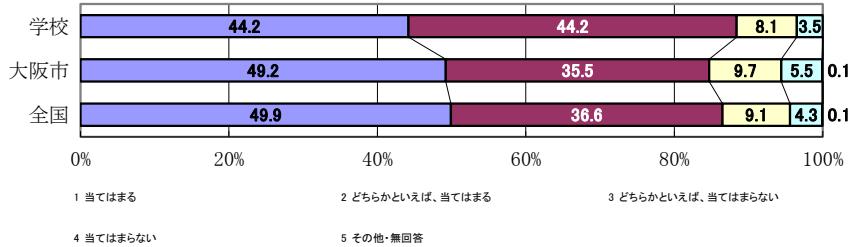
学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 区分	「エネルギー」を 柱とする領域	4	43.1	42.7
	「粒子」を 柱とする領域	6	49.6	49.5
B 区分	「生命」を 柱とする領域	4	47.7	51.4
	「地球」を 柱とする領域	6	61.5	63.8



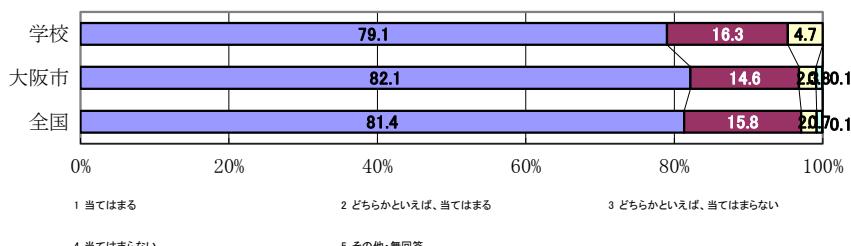
児童質問より

■1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

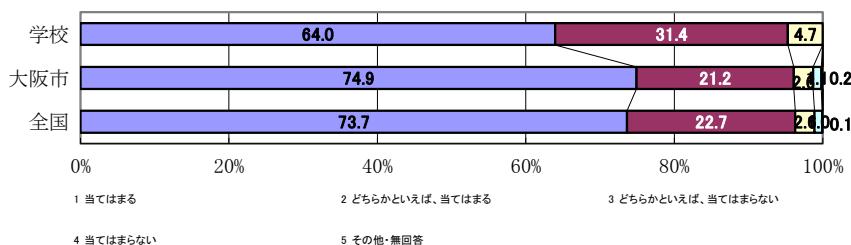
質問番号
質問事項
12
学校に行くのは楽しいと思いますか



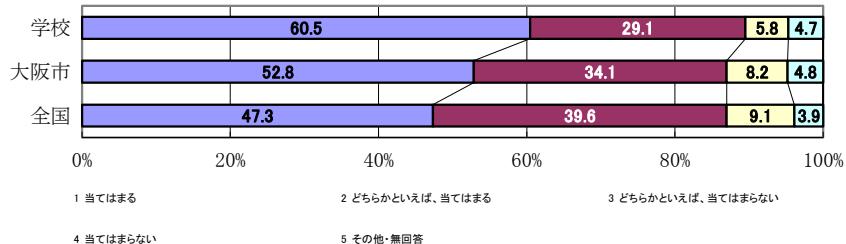
9
いじめは、どんな理由があつてもいけないことだと思いますか



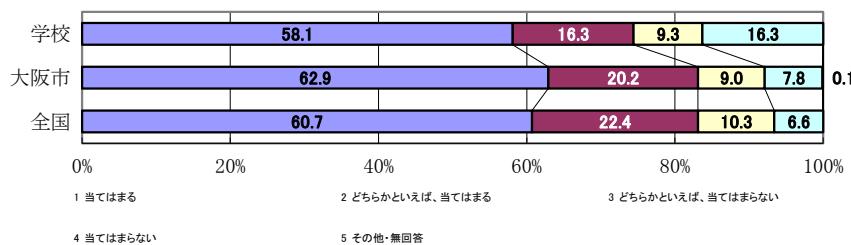
11
人の役に立つ人間になりたいと思いますか



5
自分には、よいところがあると思いますか



7
将来の夢や目標を持っていますか



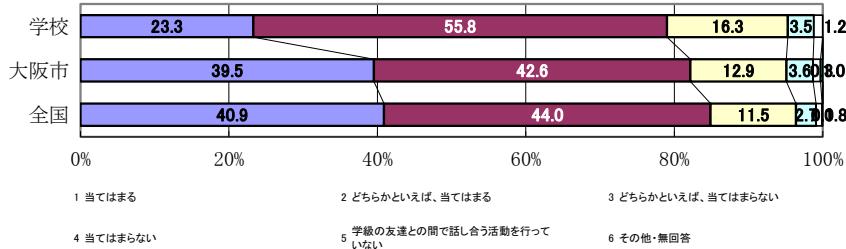
児童質問より

■1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

質問番号
質問事項

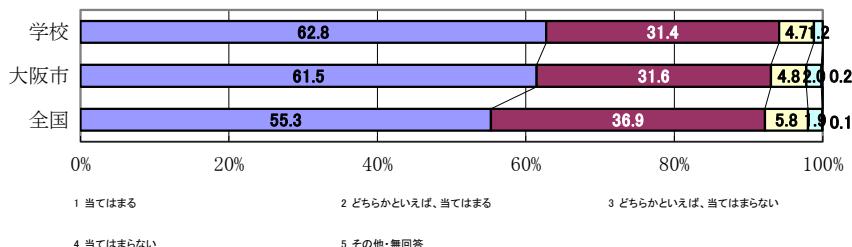
35

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方方に気付いたりすることができていますか、



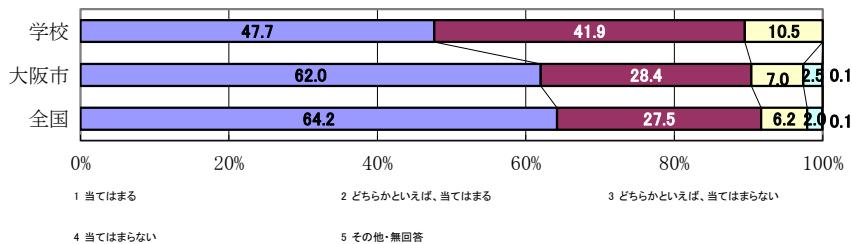
6

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか、



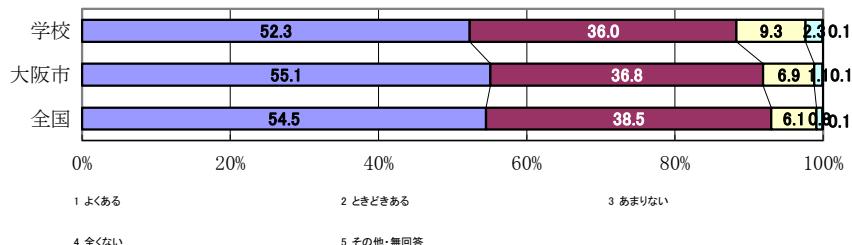
14

友達関係に満足していますか、



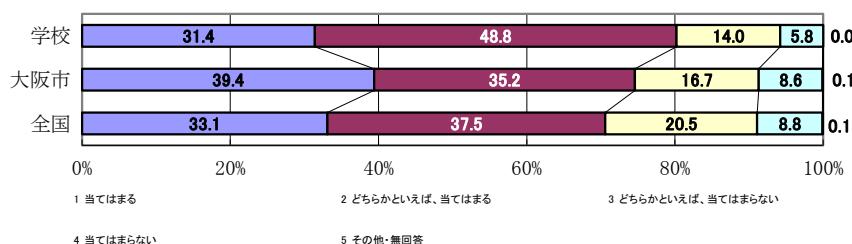
15

普段の生活中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか、



10

困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人についても相談できますか、



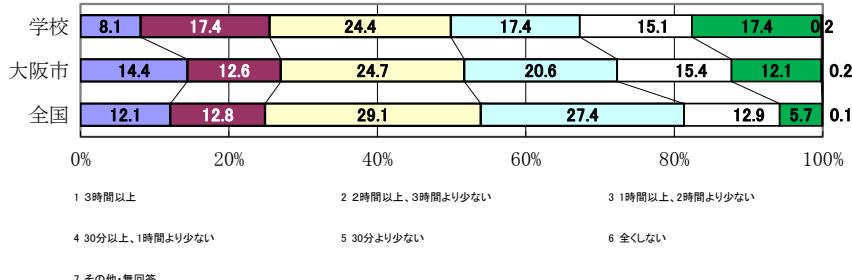
児童質問より

■1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

質問番号
質問事項

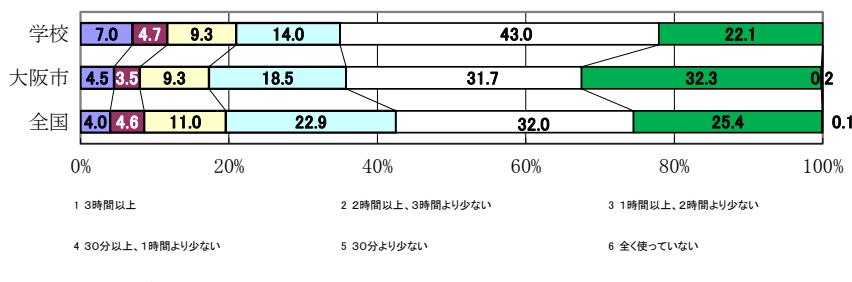
17

学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)



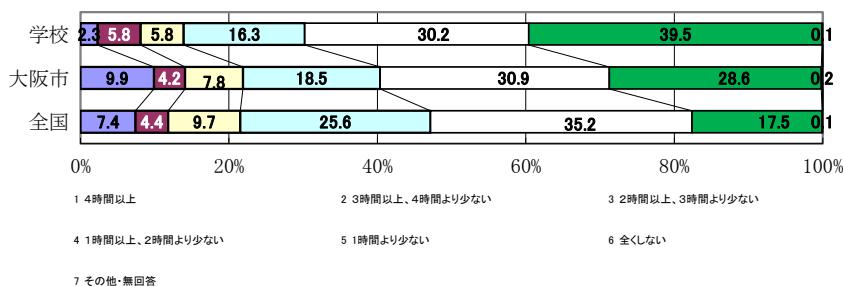
18

学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか(遊びなどの目的に使う時間は除く)



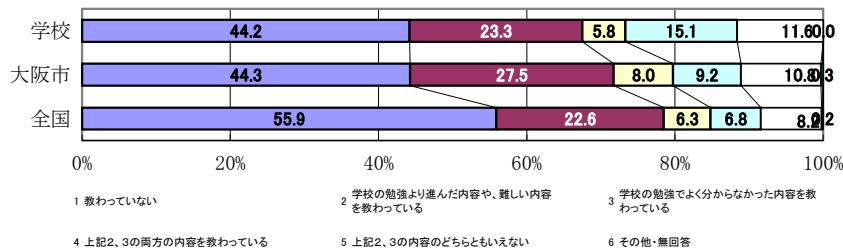
19

土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)



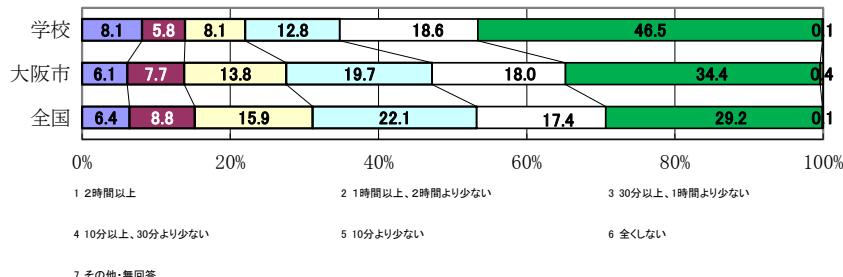
20

学習塾の先生や家庭教師の先生に教わっていますか(オンライン授業の場合も含む)



21

学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(電子書籍の読書も含む)。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)



学校質問より

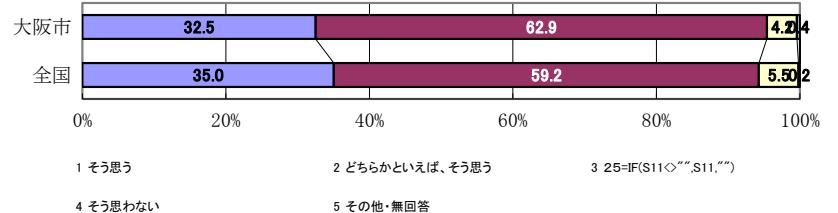
■1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

質問番号
質問事項

28

調査対象学年の児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか

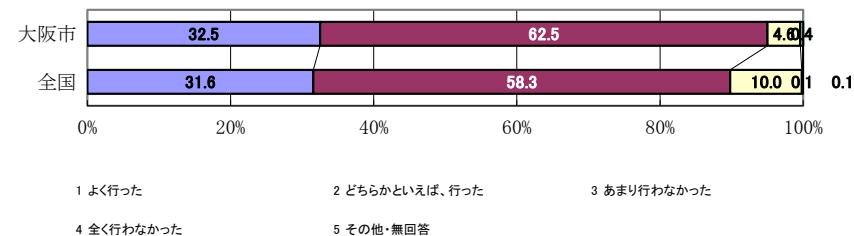
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



32

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか

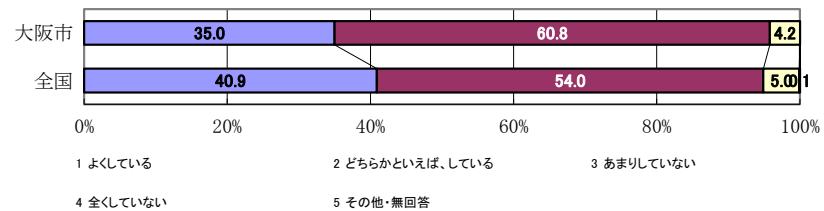
学校 「どちらかといえば、行った」を選択



37

調査対象学年の児童に対して、学級生活をよりよくするために、学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できるような指導を行っていますか

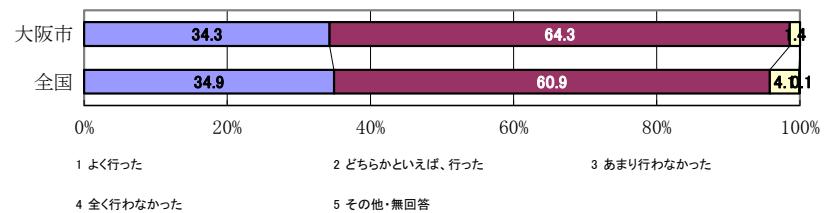
学校 「どちらかといえば、している」を選択



43

調査対象学年の児童に対する国語の授業において、前年度までに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書くことができるような指導を行いましたか

学校 「どちらかといえば、行った」を選択



58

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか

学校 「ほぼ毎日(1日に1回くらいの授業)」を選択

